

第 13 回国際科学技術関係大臣会合について "The 13th Science and technology Ministers' Roundtable"

1. 日 時：平成 28 年（2016）年 10 月 2 日（日） 13:30～15:30

2. 場 所：国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池） Annex1

3. 出席者：世界 23 ヶ国の科学技術大臣等（日本を含む：別紙参照）

4. テーマ：「未来社会のビジョンと科学技術イノベーション」

"Vision for the Future Society and the Roles of Science, Technology and Innovation (STI)"

<論点>

- ① 各国が理想とする未来社会構築と科学技術の関係は？
- ② 理想的な未来社会実現に向けて各国で取り組むべき重要課題は何か？
- ③ 未来社会構築に向けて必要とされる国際協力とは何か？

5. 結果概要

(1) 鶴保科学技術政策担当大臣が会議の議長を務めた。冒頭、鶴保大臣から、

- 日本の科学技術イノベーション政策を進める上で基本となる「科学技術基本計画」について、本年 4 月から 5 年間の計画となる「第 5 期科学技術基本計画」をスタートさせたこと。
- この基本計画において、人を中核に据え、より豊かな社会の未来の姿を提起する「Society5.0」を打ち出したこと。
- また、日本は課題先進国として、世界最先端の医療技術による健康長寿社会の形成、女性の活躍拡大と次世代を担う人材の育成、国際研究ネットワークの強化、インクルーシブ・イノベーションの推進、オープンサイエンスの推進等を打ち出し、世界規模での協力関係を構築することを示したこと。
- 日本は G7 議長国として、本年 5 月に「G7 茨城・つくば科学技術大臣会合」を開催し、「Society5.0」の考え方も踏まえ、6 つの議題について議論し、具体的なアクションとして、「グローバル・ヘルス」、「女性の参画拡大や次代の人材育成」や「オープンサイエンス」などについて、「つくばコミュニケ」として取りまとめ、世界に向けて発信したこと。

について言及があった。

また、本会合のテーマである「未来社会のビジョンと科学技術イノベーション」について、今後も世界経済を健全かつ持続的に成長させるためには、先進国も含めた世界各国において資源枯渇や環境汚染などの問題を解決していくことが重要であること。さらには、平和的かつ安定的な国際社会の実現のため、エネルギーや環境、経済などにおいて持続可能な発展が不可欠であり、参加国同士が相互に理解を深め、協働ネットワークを構築できるよう、活発な意見交換を行いたい旨の発言があった。

(2) 次に、山脇内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）より、議論をリードするため、「Society5.0」の考え方や、未来社会の構築に向け科学技術を活用した取組事例の紹介、我が国の科学技術イノベーション戦略（「第5期科学技術基本計画」の始動など）、「G7 茨城・つくば科学技術大臣会合」の成果としての「つくばコミュニケ」等について説明があり、国際協調を通じた地球規模課題への取組等について説明があった。

(3) 続いて、出席者の間で意見交換が行われた。具体的には、

- ① 未来社会を科学技術から考える上で、科学技術に関する委員会やアドバイザリー・ボードを設置するなど、科学技術イノベーションを経済政策の中核に据え、政府として戦略的な科学技術イノベーションをエビデンス・ベースで実行していることなどが紹介された。
- ② グローバルな次元で科学技術イノベーションの役割をとらえ、例えば、国連の持続可能な開発目標（SDGs）や、気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）の目標などを共通のゴールとし、課題解決に向けた取組が重要であることが認識された。
- ③ 未来社会を形成していく上では、資源の管理だけではなく、産業・社会の構造を構築するための科学技術イノベーション政策が重要であること。さらには、人材開発も欠くことのできない要素であり、訓練だけではなく、国を超えた交流、流動性が重要であるとともに、若い人材への投資が必要であるとの指摘があった。
- ④ 各国が地域の特性に応じた伝統的な知見等を蓄積しており、これらを科学的アプローチに組み込むことで未来へ伝えることが可能となる。こうした伝統的な知見を共有していくためには、オープンサイエンスを推進し、知識を学び合えるプラットフォームを作ることが重要であるとの意見が出された。

(4) 最後に鶴保大臣から、参加各国に対して謝意が伝えられた。その中で、本会合を通じて、未来社会の実現に向けて科学技術イノベーションが果たすべき役割や、国際協働

の重要性等について認識を深めるとともに、参加国それぞれの事情を理解し合うことができたこと。今後、一ヶ国のみでは解決できない地球規模課題の解決に向けて、参加各国間で様々な協調・協働が推進されるとともに、そのための持続可能な基盤が強化されていくことを期待することが述べられた。

6. ワーキングランチの開催

鶴保大臣は、大臣会合に先立ち、大臣会合出席者のネットワーキングの場として、ワーキングランチを開催し、出席者と意見交換を行った。この機会に原山優子総合科学技術・イノベーション会議議員から「人工知能 (Artificial Intelligence ; AI)」と「Society5.0」について基調講演が行われた。

7. 二国間会談

鶴保大臣は、本会合に出席した以下の大臣等と二国間会談を行った。

- ピチェット科学技術大臣 (タイ)
- ヴォデニチャロフ科学アカデミー会長 (ブルガリア)
- ファルハーディ科学研究技術大臣 (イラン)
- カストロ国家評議会科学顧問 (キューバ)